週間ポスト　　8月21日掲載

〈シニアゴルファーに朝報!〉

「違反」だけどプライベートならOK! トータル30ヤードアップも夢じゃない

大手メーカーも正式参入 高反発ドライバーは「卑怯」だなんて言わせない!

体の衰えとともにドライバーの飛距離は落ちる。打った瞬間の手応えはバッチリだったのに、いざフェアウェーに行ってみると同伴者に10ヤード以上置いていかれている。そんな飛距離低下に悩むシニアゴルファーの強い味方が「高反発ドライバー」だ。この秋、ついに大手メーカーの参入が決定。ゴルフ界で大きな話題となっている。

大手が「高反発」を作った

8月5日、東京・新橋。ゴルフメーカー大手のPRGR（プロギア）が開いた記者会見は報道陣で埋まった。

その場で発表されたのは、PRGRが高反発ドライバーを10月上旬から発売すること。これまで一部の中小メーカーだけが取り扱っていた商品に、ついに大手が参入した形だ。

高反発ドライバーは、その名の通り反発係数を高めて飛距離を生み出すドライバーのこと。00年以降に大流行したが、過剰ともいえる開発競争でボールの飛距離が伸びすぎて問題になり、世界のゴルフ・ルールを司るR&A（全英ゴルフ協会）が反発係数を抑えるルール変更に乗り出して、日本でも使用が禁止された（経緯は後述）。結果、高反発ドライバーは使用できない「違反クラブ」となり、市場から姿を消していた。

「高反発ドライバーはJGA（日本ゴルフ協会）も認めていないクラブ」、PRGRの会見でも飛び出した言葉だ。そもそもこの会見に注目が集まったのは、この"違反クラブ"を大手があえて作るという決断を下した背景に、高い関心が寄せられたことがあった。

PRGRは質問に対し、次のような説明をした。

「もちろん大前提はルールに則ること。競技に出る人は使えず、プライベートプレーでの使用が可能となりますが、昔のような飛距離を取り戻すことでシニアのゴルフライフに大きな飛びと喜びをもたらしたい」

また「JGAとは連絡はUSGA（全米ゴルフ協会）が反発係数を問題視するようになった。

その後、99年にR&Aが反発係数を抑えるルール変更を実施。フェースの反発係数が0・830以内と決められた。R&Aの動きに呼応してJGAも08年から高反発の使用を禁止する通達をしたというのが、これまでの経緯だ。

しかしこに来て容認の動きが出始めた。ゴルフ関連用品の業界団体であるJGA（日本ゴルフ用品協会）が、今年2月に「ゴルフ用品ルール適合外品の流通に関するJGAの対応について」と題するプレスリリースを発表した。それによると、JGAでは「ユーザーの健康増進のために、よりリラックスした状態でゴルフをエンジョイしているゴルファーがいることを認めたうえで、適合外品の正しい使用を広く働きかけることを宣言している。

JGAは「規則を統括している立場として、不適合クラブでプレーされることを容認することはできない」としながらも、「健康や親交を深めるためにプレーされるなど、個人の目的まで否定することはできない」と態度を軟化させている。

そうした追い風が、大手メーカーの重い腰を上げさせた。

「今回、国内での発売に踏切ったPRGRばかりが注目されていますが、他の大手メーカーも参入する準備はできている。韓国や中国向けのアジアモデルとして高反発を輸出しているホンマやマグレガーの特定のニーズを持つ層への販売を強化しているブリヂストンスポーツが、国内向けの高反発参入の動きを見せています」（ゴルフメーカー関係者）

PRGRの参戦によって、売り場にも動きがあるという。

「これまで中小メーカーが中心だった高反発クラブはネット販売が中心で売り場面積も小さかったが、有名ブランドが発売したことで売り場構成も変わってくる。高反発を買い求めるシニア層は確実に増えているので、今後追随する大手メーカーが現われることで、高反発は売り場でも市民権を得ることになるのではないか」

他メーカーも追随の動き

R&Aがルール変更したのは、ドライバーが高性能になり過ぎたためだった。きっかけになったのが、日本のクラブメーカーが最先端技術を駆使して開発した「チタンヘッド」だといわれている。チタンドライバーを使用するようになったプロの飛距離が飛躍的に伸びたことで、パー5でのオンが当たり前となり、取っていない」としたが、それでも販売に踏み切ったのは「ユーザーの根強いニーズがあった」からだった。

売り場の状況がこれを裏付けている。近年はエンジョイゴルファー向けに高反発ドライバーを発売する中小メーカーが急増し、現在は10社以上が発売、多くの売り場で高反発コーナー」

「昔のように飛ばしたい、もっとゴルフを楽しみたい」というシニアゴルファーや女性客を中心に売れています。"定年を迎えて視待ゴルフもなくなり、クラブ競技にも出ない。昔の仲間とプライベートゴルフを楽しみたいという方が購入されています」（都内のゴルフショップ店長）

飛距離が10ヤード伸びた

さて、気になるのは実際に高反発ドライバーを使えば何ヤード飛距離が伸びるのか、である。

PRGRは「あくまで参考値」としながら、「ヒューマンテストで平均4～5ヤード、中には10ヤード伸びたケースもあった」としている。

メーカーのクラブテスタとして知られ、自身も高反発ドライバーを販売するクラブアナリストの吉村忠義氏が語る。

「非力なゴルファーほど、柔らかいシャフトのしなりとトランポリン効果の相乗効果で飛ぶ。ドライバーの200ヤードを超えなくなったゴルファーが一番恩恵を受け、飛距離の1割はさらに飛ぶようになります」

まさにシニアのためのゴルフギアといえる。吉村氏によれば高反発はさらなる進化を続けているという。

「韓国や中国、台湾といったアジア市場では日本以上に高反発の需要がある。より飛ぶドライバーに人気が集まっており、各社とも開発費をかけています。ルール適合品と同じ金型が使えるので、その分コストは安く済み、開発競争に拍車をかけています」

低価格帯の高反発ドライバーを販売してきた『ワークスゴルフ』では、反発係数0・825（公認球は0・800以内）という非公認の飛ぶボール『飛匠』を販売、好評だという。

「高反発ドライバーで飛距離が1割、さらにシャフトも合わせればプラス5ヤード、飛ぶボールでさらに15ヤード増える。トータル30ヤード伸びて、"今までは絶対に越えなかったバンカーを越えた"といった声を聞きます。いつも先に降りていたカートに、みんなと同じように乗れるだけでもゴルフが楽しくなったと言われます」（ワークスゴルフ）

ただ一方で、高反発の過剰な盛り上がりを危惧する声もある。クラブ設計家の松尾好員氏はこう語る。

「ゴルフは次のリオ五輪から公式競技として認められました。元々、ゴルフは規則やマナーに非常に厳格なスポーツで、世界中の大多数のゴルファーは"規則に基づいて"プレーをしています。もちろんプライベートでの使用を制限するものではありませんが、あくまでも"違反"であることを販売店側はしっかり説明し、ユーザーも認識しておく必要があります」

PRGRでは「適合外クラブであることは販売店やインターネット上できちんと伝え、購入時に適合品と間違わないように細心の注意を払いたい」としている。

PRGRの投じた一石がシニアのゴルフライフを変えることになるだろうか。

「あの頃の飛距離」を取り戻す高反発ドライバー 9

【メーカー】名称	ヘッド体積	長さ	ロフト角	総重量	フレックス	価格	特徴
【PRGR】SUPER egg ドライバー（金eggドライバー）	460cc	45.75インチ（M40、M37）	10.5、11.5度	283グラム（M37）	M40(SR)、M37(R)、M35(R2)、M30(L)	10万円	フェースとクラウンの境界部に「パワーフランジ構造」を採用。クラウン変形を抑える効果があるフランジ後部の段差との相乗効果で反発係数0.85以上を実現。
【リョーマゴルフ】MAXIMAスペシャルチューニング・ブラック	460cc	46.5インチ	9.5、10.5、11.5度	285グラム（∞）	∞（30～50m/sまで対応）	オープン価格（実勢価格15万円）	全体をチューニングした高反発ヘッドに、RやSなどのフレックスがなくスイングやヘッドスピードにシャフトが合わせるビヨンドパワーシャフト装着モデル。
【カタナゴルフ】VOLTiOⅢ PREMIUMHi	480cc	46.5インチ	10、11度	280グラム（R）	S、SR、R、EL	15万8000円	超反発2041チタンフェースを極薄化し、480ccの新構造ヘッドで反発係数をさらに高めた。史上最軽量シャフトと組み合わせた2000本限定モデル。
【北側物産プロテック】SUPERMAN Hyper HR	460cc	45.5インチ	9、10度	298グラム（R1）	SR、R1	16万円	4ピース鍛造構造を採用。フェース、クラウン、ソールの「トリプル・スプリングシナジー効果」でヘッド全体がたわみ、反発係数0・885以上を達成。
【つるやゴルフ】アクセルゴールドプレミアム	460cc	46.5インチ	10.5度	285グラム（R）	S、R	9万5200円	フェースに高強度素材SAT2041βチタンを採用し、強度を維持しつつ極限まで薄肉化に成功。フェースを円形に近づけ全体のたわみを大きくした。
【ワークスゴルフ】ハイパーブレードΣ（シグマ）プレミア	460cc	46インチ	9.5、10.5度	293グラム（R）	S、SR、R	4万9980円～	従来モデルの3倍の硬度の最強チタン（DAT55G+）をベースに超極薄フェース（1.9ミリ）の採用により高反発力を発揮。左用モデルもラインアップ。
【チームヨシムラ】PX200ドライバー	460cc	46インチ	9.5、10.5度	278グラム（R）	S、SR、R	9万円	一般ゴルファーが一番ヒットしやすい打点に肉厚を持たせ、その周辺部を極薄フェースにすることでトランポリン効果を最大限に発揮させた。
【グローブライド】GⅢ DRIVER HR	460cc	46インチ	10、11.5度	281グラム（R）	SR、R	12万円	高強度でたわみ量の多いチタンフェースを採用。独自の肉厚構造にすることで、SLEルールの基準値（0.83）を上回る反発係数0.875を実現。
【イオンスポーツ】ギガHS788ドライバー	460cc	46.5インチ	9.5、10.5度	292グラム（R）	S、SR、R	9万円	強硬度TVCチタンとヘッドの剛性を高めた新Hモノコックボディを組み合わせた。フジクラ社との共同開発で高弾性のシャフトを開発。

価格は税抜き本体価格。